

乗円寺 寺報

2020年 9月
秋のお彼岸&報恩講号
寺報から訊く
寺報No27

withコロナ
報恩講10月4日(日)
11:00~詳細別紙案内参照

報恩講&永代経 当日予定
11:00~ お参り (正信偈)
11:30頃~特別法話
「今・ここ」を居場所にする
講師：三橋尚伸氏
(産業カウンセラー・真宗大谷派僧侶)
東京より、ネットを使って法話
12:10~ 解散

● 本年度の報恩講・永代経勤めは、コロナ禍に相応しい形で
新型コロナウイルス感染症の流行で皆様方におかれましても、大変なご苦
労をされておられることと案じております。

本年度の当寺報恩講・永代経の勤めですが、新型コロナウイルス感染症拡大
の状況を鑑み、規模を縮小し実施したいと思っております。執行にあたり、感染リ
スクのこと、お参りされたい方もいることなど、長期間考えてきました。中
止も考えましたが結論としては、お寺でのお参りと、オンラインでのお参り
が選べる、今出来る精一杯の形での執行を選びました。

10月4日は日曜日です。若い方のご協力も得られやすい方もいらつしやる
と思いません。お声がけいただき、時代の変化を感じながら、一緒にお参りを
していきたいと思います。※この計画は現時点の決定であり、今後金沢市で新型コ
ロナウイルス感染拡大の場合は中止します。その場合は別途、ご案内いたし
ます(住職より・中継が失敗したらごめんください)。



- ① 感染予防対策を万全にして実施！
三密にならないよう本堂すべての換気、空気清浄機の設置、透明板設置、入口で検温、マスクの着用など、コロナウイルス感染予防対策を十分に実施して参ります。
- ② お寺でもご自宅でも参加が可能！
お参り&ご法話、オンライン中継！
お寺に来てお参りするのよし。外出がご不安な方は、ご自宅の仏壇近くで、オンラインでお参りするのよし。「ずっとお参りたいと思っていたけど・・・」という方も、この機会にぜひお参りください。(詳細別紙)
- ③ お参りキッシュのテイクアウト配布！
(スーカラマッタヴァー風 キッシュ)

本年度の報恩講は、コロナの観点でお参り後にお齋(お寺ごはん)を食べていただくことは出来ません。でも前号に紹介させてもらった、白山キッシュハウスクウーイの(白山市八幡町又26-1)高田さんが、この報恩講に相応しいキッシュを開発してくれました。お寺にお参りに来た方、お参り後に高田さんのお店に行かれた方に、おひとつテイクアウト配布(数量限定)。スーカラマッタヴァーとは、お釈迦様が最後に食したとされる食事。伝えによると、その料理はきのこ料理や豚肉料理と言われています。昔、乗円寺のお齋は、ある門徒さんが山で取れたきのこの料理を出してくれていたもので、今回のキッシュはきのこを使用してもらいました。とても美味しい仕上がります。

大切にしたい仏法のお言葉

前号に引き続き、仏法のお言葉を2つご紹介させていただきます。左は親鸞聖人が『教行信証』の最後に、道綽禅師(どうしゃくぜんじ)の『安楽集』の一文を引用しているお言葉です。言葉自体は難しくないので、意味がまったく分からないことはないと思います。どんな想いや願いがあるのでしょうか。

前に生まれん者は
後を導き、
後に生まれん者は
前を訪え
(安楽集)

文字通りに読むと、この言葉は「自分より年上の先輩や親は、下のものをしっかりと導き、年下は上の年代の方をしっかり見習う」といったように読めます。しかし

「生まれん」をどのように捉えるかによって、言葉が持つ意味が変わります。ここでいう「生まれん」とは「お浄土に生まれる」として、少し感じ方が変わって来るかと思えます。今年の7月の新盆、8月の旧盆、乗円寺のお墓や納骨堂には、コロナウイルスの影響がありながらも、例年よりも多くのお参りがありました。「自分は無宗教である」と言われる方もたまにいらつしやいますが、お参りする時点で無宗教ではなく、この言葉にある「前を訪え(訪ねる)」が自然と宿っているのではないかと思います。

去年の5月に当寺の前々坊守(私の祖母)、11月に老僧(私の祖父)がお浄土に旅立ち、私にとつての佛様が増えました。病気に長く苦しみなながらも、認知症で分からないことが増えても、いつも感謝を口にする祖母の姿。96歳まで生涯現役でお寺の仕事に関わり、体が悪くなってきても最後までお寺を、私を支えようとしてくれた老

僧の姿。母方の祖母は、いろいろ大変だった時でも温かく私を包んでくれ、愛情溢れる料理とおはぎで常にもてなしてくれました。私はそんな姿を生涯忘れることはないと思います。自分のことが分からなくなっても、目が見えなくなっても「ありがとう」と何故言えたのだろう。何故、最後まで出来ることを精一杯してくれたのだろう。私はそんな姿に自然と導かれて影響を受けています。

花びらは散っても
花は散らばない
人は死なぬ
形は滅びても

ある僧侶の方が、お参りの命日参りの意味を説明されている時に、「新たにお浄土に命(いのち)をいただいた日であると同時に、先立って亡くなった方の想いを、残ったものが明らかにし、亡き人からの、佛さんか

生きるこの大変さ、老いるつらさ、病気のしんどさ、死ぬことの悲しさに誰もが必ず出会います。人は悩みながら生きています。私達の先祖はそんな苦悩と共に精一杯生きました。仏法のお言葉も人間の苦悩と共に生まれて、安心や生きるヒントを与えてくれます。前号の寺報では野々市町の真宗大谷派常講寺、前坊守、藤場さんの佛様の言葉をご紹介しましたが、藤場さんいろいろな苦悩があつて、お参りから佛様を訪ね、佛様の言葉を聞くことになりました(前号参照 HPにも掲載)。

私も「前に生まれん者」の姿を訪ね、受け継ぎ、かけがえのない命(いのち)の意味について明らかしていきたいと思えます。そしていつか「訪ねられるように、恥じない姿を見せたいといけません(笑)。あなたは「前に生まれん者」から、どんな願いやメッセージを聞きますか？共に訪ねてまいりましょう。合掌